

学 校 名：新宿区立四谷中学校  
 対 象：第 1 学年  
 授業者名：半本 藍

1 題材名

自分の好きな場所（水彩による構図を考えた風景画の制作）

2 対象学年と学習指導要領上の位置づけ

第 1 学年 A 表現（1）ア(ア)、(2)ア(ア)、[共通事項](1)アイ 及び B 鑑賞(1) [共通事項]

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

**知**①形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などを基に、全体のイメージでとらえることを理解する。([共通事項])

**技**②水彩絵具の材料や用具の活かし方を身に付け、意図に応じて工夫して表現したり、材料や用具の特性などから制作の順序を考えたりしながら、見通しをもって表現する。

イ 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

**発**①風景を見つめ形や色彩の特徴から、心情と関連づけるなどして主題を生み出し、自分の感じた風景の良さが人に伝わるように表現の構想を練る。

**鑑**②風景の造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

**態表**①美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に風景の美しさや奥行きなどを表現する工夫を行い、見通しをもって表現の学習活動に取り組もうとする。

**態鑑**②美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとする。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学びに取り組む態度
<p><b>知</b> 形や色彩などが感情にもたらす効果や、造形的な特徴などをもとに、景色の魅力全体をイメージでとらえることを理解している。</p> <p><b>技</b> 水彩絵の具の活かし方などを身に付け、意図に応じて工夫したり、材料や用具の特性などから制作の順序を考えたりしながら、見通しをもって表現している。</p>	<p><b>発</b> 美術的な見方・考え方をはたらかせながら風景のよさや美しさなどをもとに主題を生み出し、画面全体と部分の関係を考え、創造的な構成を工夫し、心豊かに表現する構想を練っている。</p> <p><b>鑑</b> 造形的な良さや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。</p>	<p><b>態表</b> 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく風景の美しさやその場所への思い入れなどをもとに構想を練ったり、意図に応じて工夫して表現したりする表現の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p><b>態鑑</b> 美術の創造活動の喜びを味わい楽しく造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の心情や表現の意図や工夫などについて考えるなどの見方や感じ方を広げる鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>

#### 4 指導観

##### (1) 題材観、分科会テーマとの関連

日常的に目に入る景色や物は、人によってとらえ方が違う。その認識を改めて持つことで、多様な視点に気づき、自分の好みを意識することにつながる。自分の視点と他者の視点に気が付き、主体的な表現による伝達を行うことは「生き方」につながる美術活動であると考え。

また、ICT を利用し生徒自身も自分の作品を客観的にとらえやすい状況を作ることで、教員からの指導と評価のフィードバックが入りやすくする。本題材では、生徒自身が自分の制作を振り返ることで、工夫を考える機会を作り、主体的に創意工夫する力を育成する。

##### (2) 生徒観

入学時点では「緑色を黄色と青で作ることができる」など混色の基本について知らない生徒も見られる。小学生でも使っていた水彩の知識・技法をより深めることを目指す。

「自由に」と言われると戸惑う生徒も多いため、手順を一つ一つ追っていくことができるよう、細かいステップを用意し、生徒が制作意欲を維持する手助けの用意を考える必要がある。一方で忌憚なく意見を述べ合うことができるため、ICT も活用し互いの制作を共有しながら意見交換を行い、それぞれの視野を広げていく。

##### (3) 教材観

本題材を行うにあたって、1 学期には色についてと、遠近法や構図について学んでいる。それらを生かすことで、表現の工夫の補助とする。制作前に、まずは写真を持ちいて自分の着目点をまとめて、言葉として人に伝えることで、自分の制作意図を再認識して目標を設定できると考えた。制作がある程度進んだところでも鑑賞の活動を取り入れることで、鑑賞を表現に生かすことができるようにする。

水彩は生涯美術を愛好するうえで、親しみやすい画材のひとつであり、この基礎を身に付けることは、生徒の生涯学習にもつながるものである。

#### 5 題材の指導計画と評価計画（全 1 1 時間）

時	目標	●学習のねらい・学習活動	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第 1 時	構図について知り、創造的に構図や攻勢を工夫する素地を養う。	●「構図」を理解する。 ・遠近法の手法について知り、実際に簡単な構図を描いてみることで遠近法や構図の基礎を理解する。	知① 【ワークシート、発言の内容】		
第 2 時 ～第 3 時	対象を見つめ、創造的に構図や構成を工夫する。 発表を通して、見方や感じ方を	●主題を生み出す。 ●主題をもとに構想を練る ・それぞれの生徒が風景の写真を持ち寄り、場所の説明、注目した点や気に入ったところ、どのように表現したいかを言語化して文章で表現する。		発 (デジタルシート)	態鑑 (デジタルワークシート)

	広げる	<ul style="list-style-type: none"> <li>●互いに鑑賞し、考え方や見方を広げる。</li> <li>・ICT を利用し、自分の用意した写真とその風景をどう見たかを共有し、見方を広げるとともに、自分の構想をより明確化する。</li> </ul>			
第 4 時 ～第 1 0 時		<p>制作</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●構成を考え実行する。</li> <li>・改めて構図を考え、ラフスケッチを行うことで、自分の求める画面に近づける。</li> <li>●</li> <li>・形や色彩などが感情にもたらす効果などを考えながら水彩絵の具で、自己の構想に基づき、筆致を変えたり、絵の具の濃度などを変えたりするなど様々な水彩絵の具の表し方を試す。</li> <li>・色を付けることを考え、鉛筆で書き込みすぎないように考える。</li> <li>●発想や構想をもとに自分の意図に合う表現方法を工夫し表す。</li> <li>・自分の意図に応じて、水彩絵の具や筆などの使い方を工夫して表す。また制作の途中で鑑賞を行い、他者の作品を見たり、自分の意図を説明したりすることにより、より表したいものを明確にしていくなどしながら、作品を完成させる。</li> </ul>	<p><b>技</b></p> <p>(作品、授業観察)</p>		<p><b>態表</b></p> <p>(作品、授業観察、デジタルシート)</p>
第 1 1 時		<p>鑑賞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●生徒作品や美術作品などから、作者の心情や表現の意図と工夫などについて考え、見方や感じ方を広げる。</li> <li>・お互いの完成した作品を鑑賞し、作品から感じたことや考えたことを説明しあう。</li> <li>・いくつかの作品を鑑賞し、作品の主題と表現の関係や意図と工夫などについて自分の活動した経験から新たな見方や感じ方を広げる。</li> </ul>		<p><b>鑑</b></p> <p>(デジタルシート、授業観察)</p>	<p><b>態鑑</b></p> <p>(デジタルシート、授業観察)</p>

## 6 指導にあたって

生徒が自分で学習状況を把握調整し、見通しを持つために ICT を使用して考えたことの言語化や、制作過程の記録などを行う。

生徒の思いを言語化させることで、教員が生徒の制作意図や工夫を把握し、評価と指導の一体化を図る。

## 7 生徒の活動の様子

<p>生徒 A</p> 	<p>岐阜県美濃市の長良川に架かる美濃橋を撮りました。投詠に青空が映っていて、下から橋を見る事で橋の迫力を出せると思い、この写真を選びました。</p> <p>②青空と山をバックにして、赤い物のインパクトがいいなと思い、この構図にしました。自然の綺麗な色合いと、橋の迫力を描きたいです。</p> <p>葉がついていない木などはなくし、シンプルにして雄大な自然と橋を見せたいと思います。</p>	<p>生徒の用意した写真と説明</p> <p>生徒がどこに着目したのか。どこにこだわろうとしているのか、知ることができる。</p>
	<p>①はじめは大きな橋を強調して描きたいと思って選んだ。なので、この後も橋の迫力が出せるように、橋の大きさなどを工夫したい。</p> <p>②自然の多さをもっと表したい。なので、色鮮やかな花なども描きたい。</p> <p>③下の砂も細かく描きたい。</p>	<p>途中経過</p> <p>自然の豊かさを表現するため、花などを入れたらどうかと発想することができている。</p>
<p>生徒 B</p> 		<p>①・明暗をはっきりつけすぎてしまってカラフルになってしまったのでもう少し色の濃淡を抑える。岩も同じ色ばかりでのっぺりして見えるので影なども付けたい</p>
<p>生徒 C</p> <p>北海道富良野の豊かな自然をできるだけ再現できるように緑一色ではなく、ほかの緑色を混ぜてみたり雲の色を少し暗くしてみたりすることを自分なりに工夫してみました。</p> <p>また、葉っぱ一枚一枚を描けるように、木のところを小筆を使って点描みたいな感じで描いてみました。</p>	<p>生徒 D</p> <p>熱海に旅行した時に撮りました。船の質感や船で遠近感があって、ごちゃごちゃしていて日常的な海辺の町の雰囲気があると思います。</p> <p>絵をかくときはトーンを明るくしつつさびれたノスタルジックなイメージで描きたいです。船の位置を微妙に変えたりして動きを出して、カモメを飛ばしたりしたいです。空を明るめにしたいです。</p> <p>縄の質感と建物と水面を丁寧に描き分けたいです。</p>	

## 8 発表を終えて

今回、指導と評価の一体化を目指す中で、「言語化」に焦点を置いた授業実践と発表を行った。作品に取り組む前に言語活動を取り入れることで、生徒自身の制作・表現目標の具体的認識を図ることができた。一方で、「言語化」が得意ではない生徒に対して、不利にならないような配慮を工夫する必要があることを、ご指摘いただいた。風景の観察や表現に関する語群をできるだけ多く用意し、それらを参考に言語化活動を進めるなど、工夫を重ねてさらに生徒の指導と評価へ還元できる教材研究を継続する。

学校名：世田谷区立玉川中学校  
 対象：第2学年  
 授業者名：深見 響子

1 題材名 「明かりって、いいもんだ。 ～ココロを灯す、ガラリな明かり～」

2 対象学年と学習指導要領上の位置づけ

第2学年 A表現 (1) イ (ウ)、(2) ア (ア) (イ)、B鑑賞 (1) イ (ア)、  
 [共通事項]



3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

ア 「知識及び技能」に関する目標

**知**①ランプシェードの形や色、使用材料、点灯時の透過光などが感情にもたらす効果などを理解する。【共通事項】

②明かりの造形的特徴などを基に、設置空間全体をイメージして捉えることを理解する。【共通事項】

**技**③材料や用具の特性を理解するとともに、意図に応じて選択し、自分の表現方法を追求して創造的に表す。【A表現】

④材料や用具の特性を理解し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表す。【A表現】

イ 「思考力、判断力、表現力等」に関する目標

**発**①使用者の豊かな（幸せな）生活を生み出すことを基に、使用者と設置空間の関わりから主題を生み出し、機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。【A表現】

**鑑**②自宅の明かりに見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎなどの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める。【B鑑賞】

ウ 「学びに向かう力、人間性等」に関する目標

**態表**①美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組む。

**態鑑**②美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組む。

(2) 評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<b>知</b> ①ランプシェードの形や色、使用材料、点灯時の透過光などが感情にもたらす効果などを理解している。【共通事項】 ②明かりの造形的特徴などを基に、設置空間全体をイメージして捉えている。【共通事項】 <b>技</b> ③材料や用具の特性を理解するとともに、意図に応じて選択し、自分の表現方法を追求して創造的に表している。【A表現】 ④材料や用具の特性を理解し、制作の順序などを総合的に考えながら、見通しをもって表している。【A表現】	<b>発</b> ①使用者の豊かな（幸せな）生活を生み出すことを基に、使用者と設置空間の関わりから主題を生み出し、機能と美しさなどの調和を総合的に考え、表現の構想を練っている。【A表現】 <b>鑑</b> ②自宅の明かりに見られる造形的な美しさなどを感じ取り、安らぎなどの視点から生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深めている。【B鑑賞】	<b>態表</b> ①美術の創造活動の喜びを味わい主体的に目的や機能などを考えた表現の学習活動に取り組もうとしている。 <b>態鑑</b> ②美術の創造活動の喜びを味わい、主体的に生活や社会を美しく豊かにする美術の働きについて考えるなどして、見方や感じ方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。



#### 4 指導観

##### (1) 題材観、分科会テーマとの関連

###### 題材と学習指導要領との関連

本題材は、自宅の設置場所と使用者とのつながりを認知できる、機能性と美しさを兼ね備えた明かりを表現する題材である。設置者の心遣いが込められた明かりを点灯して、その設置空間をがらりと変化させることで、使用者のより豊かな（幸せな）生活を生み出せるよう指導していく。

本題材では材料に制限を設けていない。生徒の主体性を刺激する意図もあり、発想した内容を具現化するのにできる限り相応しい材料を自ら選択させていく。また、様々な材料を意図した形に造形していくにあたり、その接合方法や手順の見通しも必要となる。全員に統一された制作方法や手順が用意されていない中で、ランプシェードを立体化していくための生徒の粘り強い試行錯誤が重要となってくる。

授業の導入では、自宅の明かり2点を比較鑑賞する。当たり前前に使用している自宅の明かりについて、その機能性や美しさ、そして使用者に与える影響を考えさせ、その気づきを表現に活かすように指導する。完成後は自宅で撮影し、生徒が互いに鑑賞し合いながら、生活の中における明かりの役割や影響についての見方・感じ方をさらに深めることとする。

本題材が作品として捉えるべきものは、点灯した明かりを含む設置空間そのものである。表現のねらいに適した材料を基に造形された明かりそのものだけでなく、最終的には点灯時の光の強さや色合い、本体や周辺に出現する光と影、それらが使用者に与えるイメージや影響など、全てが一体となって設置場所と明かりの造形的融和による空間の新たな価値創造に結び付くことを実感できる題材として位置付けている。

###### 分科会テーマ「1 指導と評価の一体化」との関連（「主体的に学習に取り組む態度」を中心に）

これまでの自分の指導計画の反省を受け、本題材では特に「主体的に学習に取り組む態度」に焦点を当てた。下記①～④の「意思的な側面」を捉えることのできる活動場面と評価材料を設定することで、「指導と評価の一体化」の改善を図ることをねらいとする。これにより、生徒が主体的に学習状況を把握しやすくなり、試行錯誤する意思が高まると推測する。結果として、「知識・技能」「思考・判断・表現」の2観点も改善が見られると考える。

- ① 生徒が自分事として自分の課題や生活・社会と関連付けて追及する  
→ 自宅の照明の鑑賞、実際に自宅に設置する明かりの制作
- ② 生徒が見通しをもって学習に取り組めるようにする  
→ 授業予定表（ロイロノートで送付）、手順の掲示・資料箱への保存（ロイロノート）
- ③ 生徒が学習状況を把握し（適切なタイミングで学習内容を振り返る）、粘り強く改善しようとする  
→ 少人数グループでのアドバイスタイム、美術 MEMO の作成（ロイロノートで授業ふりかえり記録）の作成、完成直前のプチ鑑賞タイム
- ④ 生徒が既習内容や情報を活用し、応用・発展させながら、問題解決しようとする  
→ 造形的な視点・要素（構成美の要素などの既習内容）や ipad（ネット、ロイロ資料箱）などの活用

##### (2) 生徒観

本校の中学2年生は、1年時に「色の基礎知識」、「構成美の要素（10種）」等を既習済である。本題材では光源やシェードの色合いが、作品全体のイメージを決定することとなる。色の感情効果を中心に思い出しながら作品の色合いを決定していくよう指導していく。シェードの形で行き詰る生徒には、材料や形を構成美の要素を参考にしながら造形していくことを勧めていく。

本題材は発想面と使用する材料など、生徒の自由度がとても高い内容となっている。どう取り組めばいいかわからないといった状況が発生しないよう、アイデアスケッチ段階での支援をこれまで以上に行っていく必要がある。また、材料や用具の名称を掲示するとともに、接合の資料画像も教室内に掲示し、ロイロノートに保存する資料画像も含め、いつでも参考にできる状態にし、生徒を支援とする。

##### (3) 教材観

本題材の光源は「デコデコ LED ライト」という7色に変化させられる LED ライトを一人1個配布する。シェード部分の材料は自由であり、学校でも多くの材料を用意している。その光の透過具合を確認できる

よう、アイディアスケッチの前にクラス生徒全員に異なる種類の材料で撮影させ、ロイロノートで共有させる。材料は生徒自ら準備しても構わない。表現のねらいにできる限り適した材料を考えることで、生徒の主体性を育む意図がある。

制作段階では、シェードの造形パターン（（風船タイプ、行燈タイプ、ラタン（籐）タイプ、紙バンドタイプ、積層タイプ、麻ひもタイプの6種）をあらかじめ紹介する。生徒はアイディアがあっても、どう形にしていけば分からずに手が止まる場合がある。その対応として、主な造形方法の参考画像をロイロノートの資料箱に保存し、併せて教室内の壁面に画像を掲示し、いつでも個別に確認できるようにしておく。

鑑賞についてはロイロノートを多いに使用する。導入段階では自宅の明かりをベン図で比較鑑賞する。ロイロノートは提出箱に入れることで、クラス全員の作品が閲覧共有できる。完成時の自宅で撮影した作品写真の鑑賞も、同様の方法で共有しながらクラスで鑑賞し、一人ひとりの見方・感じ方を深める手立ての一助とする。

## 5 題材の指導計画と評価計画(全12時間)

時	目標 ◆指導上の留意点 ◇配慮事項	学習内容 ・ 学習活動	評価規準(評価方法)		
			ア	イ	ウ
第1時	<p>ランプシェードの形や色、使用材料、また点灯時の透過光など、それらが感情にもたらす効果などを理解する。</p> <p>設置空間と使用者とのつながりを顕在化させる為には、明かり(点灯時)の造形的特徴などを基に、設置空間全体をイメージして捉えることが必要であると理解する。</p> <p>◆ベン図では、2種類の自宅の明かりを鑑賞して気づいたことをふせんに書き出し、それらに共通する明かりのデザインについて考えさせる。</p> <p>◆ベン図をクラス全体で共有することにより、生徒の明かりに対する様々な捉え方があることを確認させ、次段階のデザインに活かすよう指導する。</p>	<p>【鑑賞】</p> <p>①宿題自宅にある2つの明かりを比較鑑賞し、レポートする。(ロイロノートのベン図に記入)</p> <p>②宿題ロイロノートの提出箱に入れる。</p> <p>③題材の説明を受ける。(明かりをいいなと感じたことがあるか考える)</p> <p>④クラスメイトのベン図の内容を共有する。(特に2つの明かりに共通する点)</p> <p>⑤全員が異なる材料を使ってライトを撮影し、光の見え方を確認する。(ロイロノートに提出。アイディアスケッチの参考にする。)</p>	①②明かりレポート(ベン図)		①明かりレポート(ベン図)
第2時	<p>使用者の豊かな(幸せな)生活を生み出すことを基に、使用者と設置空間の関わりから主題を生み出し、機能と美しさなどとの調和を総合的に考え、表現の構想を練る。</p> <p>◆自分の明かりをデザインする上での重要なポイントを、クラスメイトのベン図(夏課題)を参考として活かすよう促す。</p> <p>◆設置場所、使用者、設置目的等を明確にさせながらアイディアスケッチさせる。</p> <p>◆アドバイスタイムを通じて、デザインに対する客観的視点をもたせ、表現を深めさせる。</p>	<p>【発想】</p> <p>①宿題プリントに下描きする(アイディアスケッチ)。</p> <p>②アドバイスタイム(4人1組)において、アイディアスケッチを回し見し、改善点等を互いにアドバイスする。</p> <p>③デザインをブラッシュアップする。</p>	①② アイディアスケッチ(下描プリント)	① アイディアスケッチ(下描プリント)	① アイディアスケッチ(下描プリント)、活動の様子

<p>第3時 ～第11 時</p>	<p>表現のねらいに必要な材料や用具の特性を理解するとともに、それらを適切に選択して使用し、設置空間と使用者との新たなつながりを顕在化させる為に自分の表現方法を追求して創造的に表す。</p> <p>使用材料の特性を理解し、制作の見通しをもって表す。</p> <p>◆造形パターンや用具の参考動画をロイロ資料箱に保存すると共に教室壁面にもその手順を掲示し、生徒がいつでも確認できるようにする。</p> <p>◆隣接する準備室は生徒が点灯時の状態を確認する時にはいつでも入室を許可する。準備室内はカットティングシートで光を遮断しておく。</p> <p>◆教室は光を遮断する為、窓に黒のカットティングシートを貼ってあり、電気を消せばいつでも暗い状態となる。</p>	<p><b>【制作】</b></p> <p>①表現のねらいにできる限り適した材料・用具を選択し、適切に接合しながら造形する。</p> <p>②適宜、隣接する準備室に行き点灯した状態の確認を行う。</p> <p>③下描きプリント2④⑤を再確認し、必要あればデザインや重要ポイントを追加・変更する。</p> <p>④完成前に、クラス全体で暗くした教室で作品を点灯させ、互いに作品を鑑賞する。その後表現のブラッシュアップを図る。</p>	<p>①②③④ 作品(本体)</p>	<p>①作品(本体)</p>	<p>①活動の様子、美術MEMO、作品(本体)</p>
<p>第12時</p>	<p>ランプシェードの形や色、使用材料、また点灯時の透過光など、それらが感情にもたらす効果などを理解する。</p> <p>設置空間と使用者との新たなつながりを顕在化させる為には、明かり(点灯時)の造形的特徴などを基に、設置空間全体をイメージして捉えることが必要であると理解する。</p> <p>自宅の明かりの目的や機能・造形の要素、工夫などを鑑賞し、美意識を高め、明かりや設置についての見方や感じ方を深める。</p> <p>◆自宅では、点灯時と点灯していない時の2つを撮影し、作品の影響や効果を実感させる。</p>	<p><b>【鑑賞】</b></p> <p>①宿題完成した明かりを自宅に持ち帰り、実際に設置して点灯・撮影し、ロイロノートに提出する。(1月展示会の為、再度美術室に提出)</p> <p>②自分やクラスメイトの表現のねらいや造形の工夫を振り返りながら、鑑賞シートを記入する。</p>	<p>①②写真(自宅で点灯)、鑑賞シート</p>	<p>①写真(自宅で点灯) ②鑑賞シート</p>	<p>①写真 ②鑑賞シート、活動の様子</p>

《資料動画》

**造形パターン**

A 風船タイプ  
B 行燈タイプ  
C ラタン(籐)タイプ  
D 紙バンドタイプ  
E 積層タイプ  
F 麻ひもタイプ

**用具の使い方**

G グルーガンの使い方  
H 電ノコの使い方  
I 水のりの作り方

6 指導に当たって (4(1)③「意志的な側面」を捉えることのできる活動場面と評価材料を設定 より)

《美術 MEMO (授業ふりかえり記録：ロイロノート) の作成》

生徒が自分で学習状況を把握、調整、見通しをもつために作成する。iPadのロイロノートのテキストに毎回授業終了後に入力(作業途中の作品画像も添付)し、毎回連結・提出していく。生徒に周知してある入力内容(参考)は以下の通り。

- ◆試行錯誤したこと
- ◆意識したこと
- ◆身についた力(できるようになったこと)
- ◆工夫しようとしたが、十分でなかったこと 等
- ◆以前学習したことで、役立ったこと
- ◆今回学習したことで、今後活かそうな事
- ◆課題の発見(次回へつなげる)



## 7 発表を終えて

### 成果

#### ◆「主体的に学習に取り組む態度」についての指導と評価の一体化を理解

これまでは、この観点の評価するためにはどのような材料を揃えなければならないのかという考えでいた為、授業でも評価する段階でも常に頭を悩ませていた。しかし、生徒の主体性を高める仕掛けが、結果として「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」を向上させるという位置づけであることが今回の実践により実感できたことで、授業者として仕掛けを十分に設定・実行し、それを基にして生徒の取り組み状況を見取ることが、「主体的に学習に取り組む態度」として評価すべきこととして理解することができた。

#### ◆技法の動画作成（複数）と常時視聴が可能になったことによる生徒のつまづきの軽減

発想力はあるても技能が低い、またはどちらも低い生徒の場合、初期段階で制作への取り掛かりが難しく、学習への主体性が弱まることが多々ある。今回は技法の動画があることで、特に発想を苦手とする生徒は形を作ってみることから制作に入り、そこから主題を深めていくという道筋をたどることが明確に見とることができた。今後も表現の題材において、技法のつまづきを軽減する仕掛けや支援を適切なタイミングで設けることとする。

### 課題と改善策

#### ◆生徒が自ら主体性をもってさらに主題を深め、創造的な工夫に至るために、粘り強さをさらに引き出す

○十分な時間設定

○美術MEMOによる振り返りと見通しの、さらなる習慣づけ。

○美術MEMOは、技術や手順が先行するのではなく、主題を深めるためにいかに知識・技能を活用するかの視点で振り返り、見通しをもたせる。

○授業者がより適切な支援を行うために、授業中の様子と美術 MEMO から生徒の学習状況をよりの確に見取る。

○適切なタイミングを見定め、提示する対象（全体又は個別）を適切に選択し、効果的な仕掛けやアドバイス等の内容を提示することを、授業前に計画し、指導中も改善を心がける。

※「技法の動画」の効果的な扱い

- ・・・本題材では、1回目の下描やアドバイスタイムを終えてから、技法の動画視聴を開始した。しかし、まだ主題の掘り下げが十分でない生徒は、一度技法に流されて、主題の掘り下げから一時遠のいてしまった可能性もある。目の前の生徒に合わせて、今後も効果的な活用を考えていく。

（第3学年の木彫の授業では、基本的な彫り方を動画によって個別に練習させたところ、本制作に入る時間に大幅なばらつきが出てしまった。全体で練習できるものは行い、動画は個別に復習するために使用する、といった使い分けが大事だと痛切に感じた。）

「主体的に学習に取り組む態度」に特化した4つの手立てと具体的な仕掛け

「明かりって、いいんだ。～ココロを灯す、ガラリな明かり～」(第2学年)

授業者 世田谷区立玉川中学校 深見響子

◎「主体的に学習に取り組む態度」とは・・・生徒が自らの学習状況を把握し(学習調整)、学習の進め方を試行錯誤する(粘り強い取り組み)という意思的な側面。

時教	生徒の学習内容と順序	「主体的に学習に取り組む態度」を生み出す手立てと、具体的な仕掛け				仕掛けの成果●と課題▼ (主体性の高まり)	改善策◇ (本年度、そして次年度に向けて)
		① 自分事として捉える	② 見通しをもつ	③ 学習状況を把握	④ 既習内容や情報の活用		
夏 宿題	① 明かりのレポート(ベン図)の作成				★ロイロで閲覧共有(授業者作成の参考画像や、クラスメイットの宿題)	●どうやって作成したらいかがよく分らない生徒が、他生徒のレポートを見て参考にすることができた。(提出率93%) ▼未提出者7%	
	② 題材の説明を受ける	★発問「明かりっていいな」と感じたところがあるか? ★題材名の理解				●色々な生徒の明かりに対する「いいな」という想いを共有し、作品に対する思い入れを生み出すきっかけを作ることができた。 ●これまでに「明かりっていいな」(自然光も一部含む)と自分なりに感じたことのある生徒は79%。 ▼発問に対しては数名の生徒のみに回答させたが、アイディアスケッチ段階で明かりの設置目的が不明瞭な生徒がかなりいた。	◇発問内容をレポートに含め、全員が明かりを身近に感じた経験を思い出させることで、題材理解、ひいては制作に対する主体性の向上への一助とする。
1時間目	③ ベン図の鑑賞(ロイロ)				★ロイロで閲覧共有	●改めて鑑賞することで、様々な明かりがあることに気づき、制作への関心を高めることができた。 ▼自宅の明かりは汎用性の高いシンブルなデザインが多くあり、生徒はその感覚でアイディアスケッチ突入してしまっ	◇レポート内容の改善
	④ 一人1つの材料を使った「光の見え方」の撮影	★たくさんの材料を見学 ★「光の見え方」一覧作成			★「光の見え方」一覧作成(ロイロ提出)	●これまでになく多くの材料に接するだけで制作への関心を高めることができた。 ●自分で材料を試し撮影(光の見え方)することで、材料への親しみを高めることができた。 ●生徒はどうやって撮ろうかなと楽しんで撮影していた(欠席した生徒の口から「楽しそう」とあった)。材料によっては難しいものもあり、撮影に工夫が見られた生徒もいた。 ▼撮影して満足してしまい、ロイロに提出しなかった生徒がいた。	◇撮影した写真の提出の徹底(クラスメイットのためにもなる)
宿題	⑤ 明かりのアイディアスケッチを描く	★自宅に設置するところが前提	★「光の見え方」		★「光の見え方」ロイロで閲覧共有 ★明かりのレポート(ベン図)の閲覧共有	●各材料の透過光を一覧として確認することができ、制作の見通しをもつてアイディアスケッチに取り組みることができた。 ●「光の見え方」一覧を見てデザインの参考にした生徒は約70%。 ●「明かりのレポート(ベン図)」一覧を見てデザインの参考にした生徒は58%。 ▼「光の見え方」一覧を参考にならず、光源をむき出しのままデザインする生徒が複数名いた。	◇アイディアスケッチの前、または描いた直後に、「光の見え方」一覧を全体で確認する時間を設ける。 ◇シチュエードを主としてデザイン・制作することを事前にしっかり理解させる。
	⑥ アドバイスタイム			★グループ(4人)で下描を回し見ているにアドバイス		●授業者が先にアドバイスをするのではなく、生徒が自分なりにデザインを客観視(視野の広がり)でき、アイディアを改善した生徒もいた。 ●アドバイスタイムが自分のデザイン改善に役立った生徒は83%。 アドバイスをもとにデザインを実際に改善した生徒は71%。 授業者のアドバイス(アドバイスの後に行った)をもとにデザインを改善した生徒は79%。 ▼グループのメンバーによっては的確なアドバイスがあまりもらえずに、改善に至らなかった場合もあると見ている。	◇アドバイスタイムでの改善が絶対ではないので、グループメンバーのアドバイスに触れるだけでも可とする。 ◇デザインの改善については、その後に行う授業者のアドバイスも参考にしてみよう。

宿題	⑦ 制作 ➡	★手順の動画・掲示確認 ★授業予定表確認 ★美術MEMOの作成	★ロイロで美術MEMOの閲覧共有	<p>●多くの生徒が手順の動画を活用しており、全生徒がある程度の形までは見通しをもって自分で作業を進めることが可能となった。</p> <p>●手順の動画が自分で作業を進める上で役立っていると回答した生徒は89%。</p> <p>●本時の振り返りと次回やることなど、自分の学習状況を美術MEMOとして作成することで、毎時間の学習調整への意識を高めることができている。</p> <p>●美術MEMOの作成・提出の意義を理解している生徒は80%。</p> <p>▼美術MEMOを作成しない生徒が一部いる。</p> <p>▼制作中盤で、明かりの設置目的が不明瞭な生徒が15%。(アンケート上の数字。実際はもう少し多いと思われる。)</p> <p>●試行錯誤→粘り強い取り組みが中盤から終盤にかけて多くの生徒に見られた。(設置場所を念頭に、改善しようとする意欲の発現)</p> <p>●作って終わりではなく、点灯した状態が完成。 →点灯状態が設置空間に求めることと合致しているかを確認すると同時に、光の透過具合を確認し、作品の改善につなげることができた。</p> <p>●生徒がこの活動を通して、「いい明かりが作れた」や「もっとこないいい明かりができたかも」と実感できた。</p> <p>●他者の作品の良さを実感すると同時に、自分と似たような作品との比較により学びを深めることができた。</p>
宿題	⑧ 点灯チェック ➡	★点灯時の状態確認		
宿題	⑨ 自宅で明かりを撮影(完成) ➡	★実際に自宅に設置	★実際に設置してみたの気持ち	
1. 時間目	⑩ 鑑賞(ロイロ)		★ロイロで閲覧共有	

## 第一分科会

### 指導と評価の一体化

発表者 半本藍（新宿区立四谷中学校）

深見響子（世田谷区立玉川中学校）

助言者 中屋珠美（東大和市立第三中学校長）

記録者 鈴木奏子（世田谷区立深沢中学校）

#### 『自分の好きな場所』半本 藍

##### 1 発表者から

風景画の制作を通して自由や個性を認め、変化に適用し変化を前向きに捉える力をAIには負けない力をつけ、自らの課題を見つけ、思い描く未来が実現できるように手助けしたい。言語化を取り入れることで漠然としていた考えを再認識させ、多様性、生徒理解により指導と評価の一体化につながると考えた。言語化のタイミングは3回、風景の写真の用意した時（何故これか）、制作時（どんな工夫）、鑑賞時（表現の振り返り）に設定した。言語化した記述により、指導者が意図をより明確し評価ができるようになった。ICTを活用し、生徒との共有と、他生徒同士の言語化の共有も容易に行うことができた。言語化に重点置くことで、生徒自身が感覚・考えの再発見ができ、教員も認識の修正ができ、またそれを循環し繰り返すことで、指導と評価の一体化の解決の糸口になると考えた。

##### 2 参加者から

【質問】言語化することで変化したことはどのようなことか。

【回答】以前と比較し、言語化することで表現したいことが明確になり、質問もしやすくなり、指導・助言もしやすくなった。

【質問】生徒の思いが伝わりにくい場面があったようだが、どのように指導したのか。

【回答】作品を共に見ながら対話をし、様々な提案をすることで解消できた。

#### 『明かりって、いいもんだ。～ココロを灯す、ガラリな明かり～』深見 響子

##### 1 発表者から

指導と評価の一体化を目指し、主体的に学習に取り組む態度に特化した4つの手立てと具体的な仕掛けを行った。4つの手立ては①生徒が自分事として捉える②見通しを持つ③学習状況を把握④既習内容や情報の活用、である。生徒の主体性を引き出すことができれば、生徒は必要な資質能力を自ら身につけられると考えた。ランプシェードの制作では、①自分事として捉えるために、明かり・明かりの良さについての理解、多くの材料の準備、光の透過実験、完成作品を自宅で撮影させた。②見通しを持つでは、基礎的制作の動画を準備し、いつでも見られるようにし作業の確認をさせた。③学習状況の記録では、友人の下描きにアドバイスをしながら、自分の作品の参考にした。これは83%の生徒が参考になったと回答があった。④既習内容や情報の活用では、ICTを活用し、生徒同士で共有できるようにした。

手立て・仕掛けを実践する中、他の題材でも改善すべき点が見つかった。今後も改善しながら生徒がより自主的に学習に取り組めるようにしたい。

##### 2 参加者から

【質問】動画を使うことで、子どもが考える場面が止まるのではないか。

【回答】動画により、考える場面が止まる場面もあった。何のために制作するのかを確認することで改善できたが課題も残った。

【質問】主体的に取り組めるよう、年間指導計画ではどんなことを配慮しているか。

【回答】4つの手立て明確にした年間指導計画は、まだ取り組めていない。長い題材では必ず振り返り記録を行

なっている。

### **3 助言者から**

両先生とも作品の指導経過を見ており、子どもの思いがわかっている。躓きがあり、アドバイスがあり、スムーズな制作になる。タブレットの活用も非常に効果的であり、画像を使用した振り返りやそれに教員が返答をすることで、自分の課題に気が付き、次回の改善点を考えることができる。

半本先生の指導では、言語化することによって子どもの表現したいところが迷うことがなく、指導もスムーズであった。なぜこれを選んだのか、なぜ美しいと思ったのか等をシェアすることで友達の考えを知ることができる。しかし、言語化することによるメリットは大きいですが、中学1年生の場合にどのくらいの言葉を知っているのかを考えなくてはならない。子どもによっては、聞き取りでカバーし、例より選択させる等の支援が必要になるだろう。

深見先生は生徒の主体性を引き出す「しかけ」が授業にあり、生徒が自分事として授業に取り組んでいる。授業数が限られているために、作業動画を自由に生徒が見られることは有効である。また生徒が自分で材料が選べたり、考えたりすることは楽しみであり、アイデアを話し合うことで、工夫しあえ、友達からのアドバイスをもらうことも制作の励みとなる。また、計画にあるような指導のポイントが明確なため評価も迷うことなくできるであろう。

授業の肝は何か、他の題材で指導できる場面までやりすぎていないか、年間指導を振り返る中で、指導と評価の関係を見直し、今後の指導に目指していくといいであろう。